

ST 600
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
RACE
REPORT & INTERVIEW

Yamaha Thailand Racing Team 1-2フィニッシュ!

木曜日から始まった開幕戦のレースウイーク。今シーズン、全日本にフル参戦するYamaha Thailand Racing Teamのチャランボン・ボラマイとデチャ・クライサーが初日から速さを見せていたが、金曜日の練習走行ではチャランボンが、土曜日の予選では、デチャが転倒を喫し、やや調子を崩していた。

ホールショットを奪ったのは、ポールポジションからスタートした井筒仁康。デチャ・クライサー、大崎誠之、渡辺一馬、小林龍太、横江竜司、佐藤裕児、中富伸一と続く。トップを走る井筒は、まずは様子を見ながら周回を重ねていたが、5周目の90度コーナーでデチャが井筒をかわしていく。6周目の1コーナーでは、大崎が渡辺のリアに接触してしまい無念の転倒。大きなケガがなかったのが不幸中の幸いだった。

トップグループは、デチャ、井筒、小林、チャランボン、渡辺、佐藤が形成。やや遅れて岩崎哲朗、横江竜司、中富が続いていた。7日目には、井筒が3コーナーでトップを奪うが、バックストレートで一気にチャランボンが前に出ていく。8周目の1コーナーでデチャが井筒をかわしてYamaha Thailand Racing Teamが1-2体制を築く。このタイ勢についていけたのが井筒と渡辺の2台。小林も必至に食らいついていたが10周目の90度コーナーで転倒、再スタートするもののトップ争いからは脱落してしまう。



#65チャランボン、#30デチャのトップ争い

レースも残り3周を切ると、井筒と渡辺が遅れ出し、トップ争いはタイ勢同士の一騎打ちとなる。そして最終ラップの90度コーナーへのブレーキングでデチャをかわしたチャランボンがトップでチェッカー。全日本ST600で通算3勝目をマークした。デチャが2位に入りタイ勢が1-2フィニッシュを飾った。3位に井筒が入り、全日本では8年振りとなる表彰台に上がった。4位に渡辺、5位に佐藤、6位に岩崎、7位に中富、8位に横江、9位にマレーシアライダーのザムリ・ババ、10位に津田拓也と続いた。



井筒仁康の走り

2位 デチャ・クライサー (写真左)

大変悔しいです。チームメイトが1位になったことは、チームとしては、最高の結果ですからよかったです。作戦はありました。井筒さんが速かったので、ついていこうと思っていました。その作戦通りの展開になり、トップに立ったところまでは、よかったです。最後にチャランボンが仕掛けてくるとは思いませんでした。

優勝 チャランボン・ボラマイ (写真右)

金曜日の転倒で痛めた尾てい骨が、あまりいい状態ではありませんでしたし、朝のウォームアップ走行の時点では、優勝できるとは思っていませんでした。最終ラップは、全力でトライしていきました。まだ一戦を終えただけなので、チャンピオンを獲れるとは、思っていませんし、一戦一戦いい成績を残せるように、これからもトレーニングに励みます。

3位 井筒仁康

まずは、スタートして誰がくるか様子を見ていました。レースを引っ張りながらもタイヤを温存することを心がけ、そうしているうちにデチャ選手が前に出てきた。タイ勢の2人と一緒に走るのは、今回が初めてだったので、走りを見ながらついていきました。ついていくことはできたけれど、レース終盤になると、自分もつらい状態になってしまい仕掛けられることはできなかった。開幕戦でポールポジションから3位となり、課題が見えたとし、2人の走りも見られたので、次回、以降に生かしていきたいですね。